

酒田地区観光×新たなモビリティ共創実証事業

酒田地区観光×新たなモビリティプラットフォーム

事業の基礎情報

実施主体	一般財団法人 酒田DMO
事業実施地域	山形県酒田市
共創の類型	交通事業者間共創
他分野共創の類型	観光・まちづくり
共創パートナー	一般社団法人山形県ハイヤー協会酒田支部/一般社団法人酒田観光物産協会/株式会社山形アドビューロ/酒田市（オブザーバー）
運行形態	実証事業として電動キックボードを活用した観光二次交通（レンタル）による周遊観光
運行主体	一般財団法人 酒田DMO

現状・課題

（地域交通の現状・課題に関する分析）

- 市街地の観光施設は、駅・ホテル等から距離があり散在していることから徒歩での周遊は少々困難。また、公共交通機関も便利とは言えない状況。
- 全国のタクシー運転手の平均年齢は58.3歳（令和3年度）。特に酒田市では高齢化が進み、運転手が確保ができない（前年度1社廃業）。
- ドライバー不足によって観光で使えるタクシーが不足。お客さんがいても観光ができない。
- 交通事業者の現状を踏まえた新しい二次交通モデルの構築

地域公共交通計画への位置づけ
（位置づけ予定を含む）

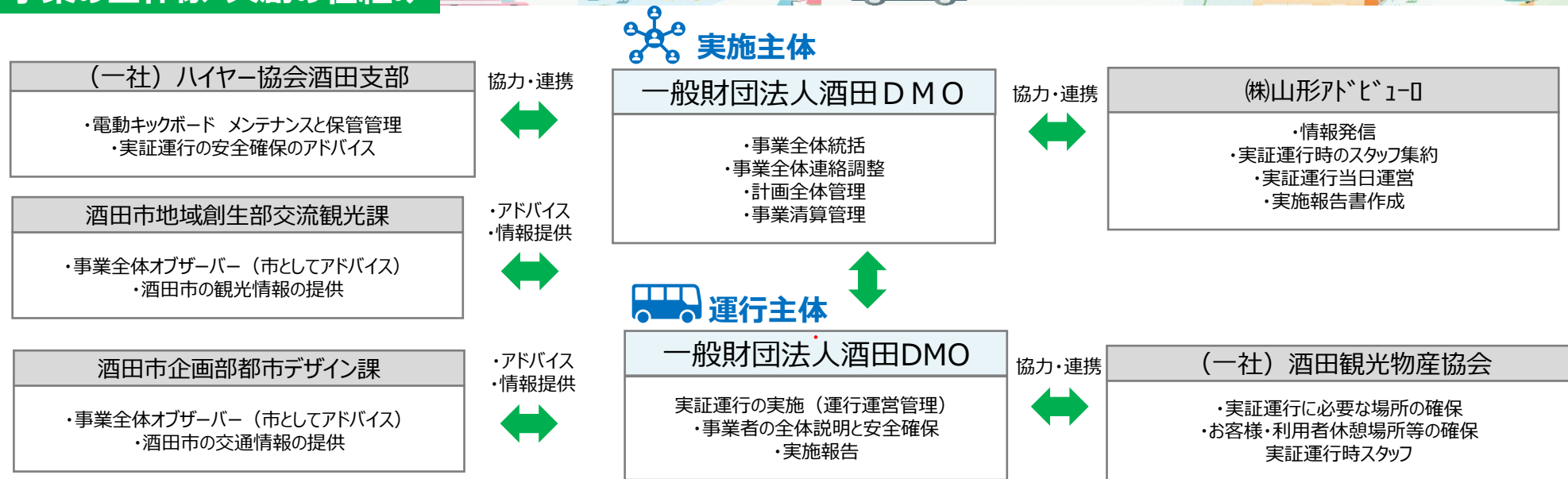
無

運輸局・運輸支局への事前相談

令和5年度共創モデル実証プロジェクトの補助有無

無

事業の全体像・共創の仕組み



取組の概要

（事業の概要）

○二次交通が十分でない本市において、市街地の新たな移動手段（末端交通）として電動キックボードを導入することにより、観光施設やお土産店等を周遊可能な環境を整備する実証運行を行うことにより、ラストワンマイルを解消するとともに回遊性を向上させ観光客の増加及び賑わいを創出するもの。

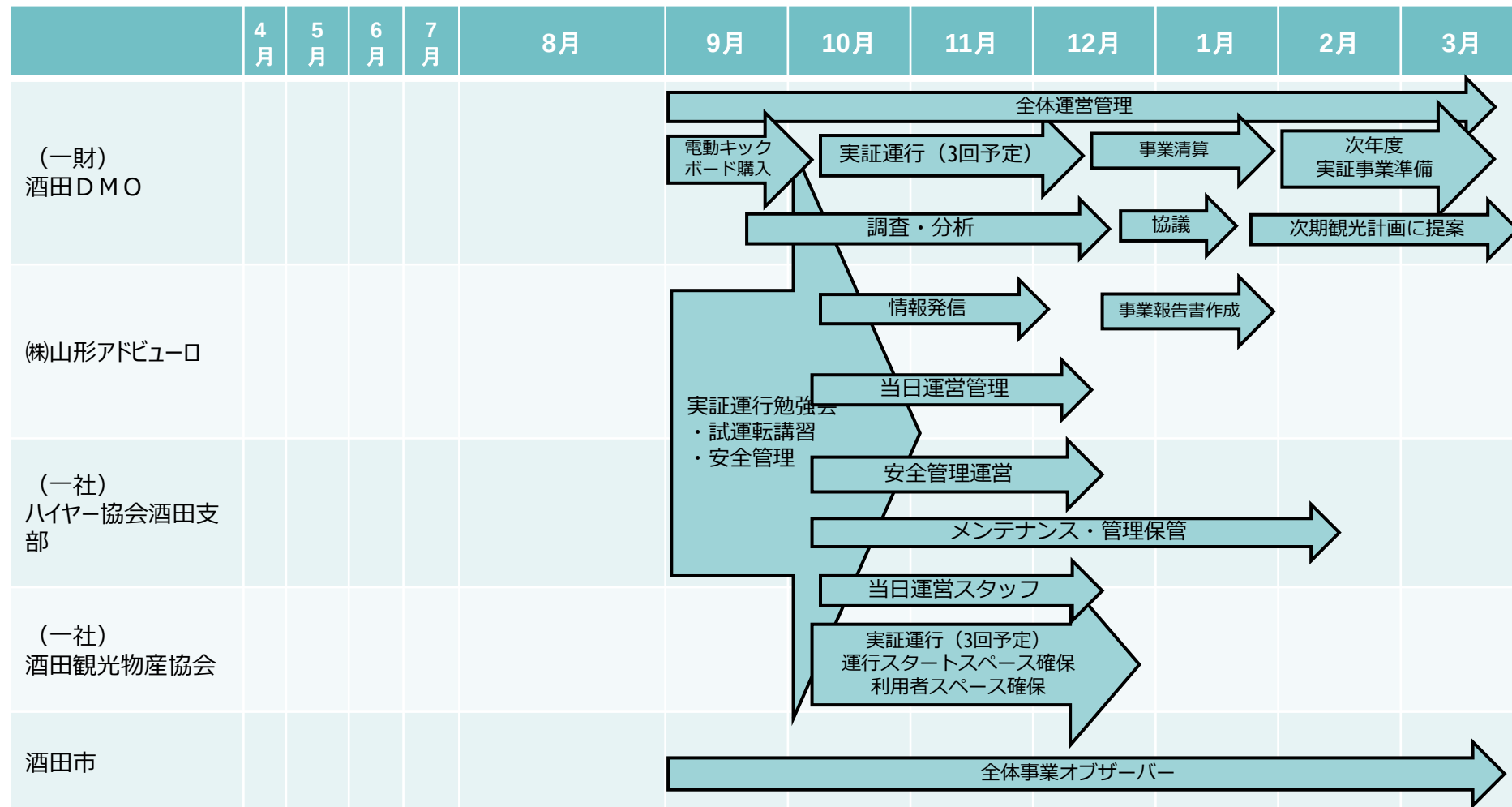
（地域の関係者との連携・協働）

○バス・タクシーの運転手不足による事業者の機会ロス、限られたタクシーを市民と観光客が取り合い希望の時間に配車されない時間ロスが生じている。「地域にとって望ましい交通ネットワーク」を創出するため既存の交通機関が「共創」で「リ・デザイン」し、交通ネットワークの維持を図るだけでなく移動需要の掘り起こしや新規需要の創出により利便性・持続可能性・生産性の高い交通サービスを構築する。

（地域公共交通ネットワークや既存交通との関係性）

○ＪＲ・酒田市乗合バス「るるんバス」・定期船「とびしま」と組み合わせることにより、シームレスな移動が実現し行動範囲が飛躍的に拡大する。もって 新たな需要として観光客を取り込んで公共交通を維持していくことにより、地域の移動手段の確保と観光振興による地域活性化を目指す。

事業実施手順・スケジュール



取組の詳細

(地域交通にもたらされると想定される効果)

○タクシー運転手の収入増加（ワンメーター ⇒ 長距離）

2, 5 5 6 千円（R 5 山形県タクシー運転手推定年収）× 5 % × 1 0 5 台（市街地タクシー） = 1 3, 4 1 9 千円

(地域全体に及ぶと想定される効果)

○観光消費額の増加

○1, 9 3 7 千人（R 5 市街地観光施設入込数）× 1 0 % × 1 0 0 円（消費誘発） = 1 9, 3 7 0 千円

○電動キックボードを利用した観光客数とアンケート等の情報収集によるデータによる観光二次交通分析

※特に以下の効果が想定される場合は、その項目に○をつけ（複数選択可）、当該内容について上記に具体的に記載してください。

○	新たな移動手段の創出や各種送迎への地域住民の混乗などによる、地域住民の利便性向上	○	貨客混載や各種送迎の公共交通への集約など、交通事業者や地域の関係者の生産性向上
	乗降データを取得する等、データを活用して、事業検証ができる環境整備		通院者や商業施設の利用者に関する情報など、他分野の移動需要に関するデータの利活用

(補助事業実施後の予定)

○R 7 年度より有償での貸し出し運営（資金の確保）

○イベント等にも積極的に参加 認知度向上とピンポイント収益の確保

○R8年～箇所を増やし、利便性を向上（貸出方法もD X化により、人材、費用の軽減に取り組む）

○R 8 年度～多様な事業者と交通連携と利用方法を提案 連携事業として運営

・レール&キックボード/バス&キックボード/タクシー&キックボード/とびしま&キックボード/クルーズ客船&キックボード・観光ガイド&キックボード

○R 7 年度～、観光客だけでなく「市民の足」として活用できないか検討 8 年度～市民と足としての実証運行

資金面	なし
人材面（運転手の確保）	なし